

県高支部ニュース 2008. 9.22 No18

兵高教組神戸県立支部 神戸市中央区北長狭通5-2-10 TEL/FAX 078-351-3252
支部ニュース投稿先: 県高支部E-mail: ken_koube@yahoo.co.jp 兵高教組HP: http://www.hyogo-kokyoso.com/

9.18(*) 中日友好の集い

2008/09/20 於: 神仙閣
(*)9.18は、中国では柳条湖事件を意味する。



林同春氏挨拶

ここに集まった人々のなかにあるのは、人類を愛し、平和を愛し、戦争の悲惨さや平和の尊さを60年余にわたって維持してきた想いでしょう。

しかしながら、一部に、この平和を打ち壊し、日本を、戦争に進む国の仲間になろうとしようとしている人々がいます。

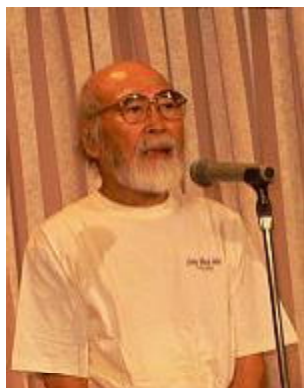
どうか、みんなで力を合わせて、これらの人々の策動を止めましょう。

短編映画『花岡殉難烈士遺骨帰国』

今年、中日平和条約から30周年、神戸天津友好都市提携35周年です。そして、中国人強制連行殉難者遺骨送還55周年になるのだそうです。

戦時中、中国から日本へ強制連行された人々の遺骨が、50年代から60年代にかけて探索・追悼・送還されました。中国への送還の第1回は、秋田県花岡市の遺骨551柱が、華僑の人々や日本の宗教者たちの大勢の人々に守られて、秋田、東京を経て、1953年7月2日、この神戸港から中国天津に向けて送還されました。そのとき、神戸港内の大小の船が、一斉に汽笛を鳴らして哀悼の意を表したそうです。

この送還は、1964年、第9次まで続き、中国・日本で組織する委員会の手によって、推定7000人の死者のうち、約2860人の遺骨を届けました。この短編映画は、その第1回を、花岡、東京での二千人の行進、神戸港出航、天津での出迎え、追悼集会をルポした貴重なものでした。司会者は、これが、中日友好の原点でもある、と仰っていました。



墨絵画家、志村墨然人氏の挨拶

私は、一度軍隊を除隊になり、再召集を待つ身だったから、その間、生活していく職場を探していました。それが、鹿島組の「飯場の帳場」つまり、労働者の把握事務だったのです。そこへ、中国の捕虜たち2~300人が連行されてきました。

それは、悲惨な光景でした。彼らは、1942年5月中旬に青島を出て、いろんな貨物を積み込まれながら、しかも潜水艦を避けながら、船底で貨物も排泄物も嘔吐物も一緒になりながら、11日間かかって5月30日に下関港へ入港し、6月5日にやっと北海道の作業現場に着いたのです。その夕刻、日本側の「受け入れ式」の長い訓辞が終わったあと、みんな、むしろを敷いただけの板床に倒れました。

私は、その寮の管理者として、彼らとともにいました。私は、その体験を語ることができずだったので、長い長い間、ずっと胸にしまっていました。ようやく60年近く経って、忘れさせてはいけない、黙っていた責任を果たさなければならない、という想いで、その時の光景を描き始めたのです。その展示を見に来た元兵士たちの口から、それまで胸に秘めていたいろんな証言が飛び出してきました。言いたかったけれども、そのきっかけがなかったんだ、と。でも、もっともっと発言して欲しい、その発言によって、新しい歴史を作っていけるんだ、と思います。(要旨文責: SN)

神戸の歴史を歩いてたしかめよう！

第10回 舞子台場跡

前回、和田岬砲台を紹介しましたが、舞子砲台跡(舞子台場)も簡単に紹介します。ここも、和田岬砲台とほぼ同時に1863(文久3)年、勝海舟の指導のもと、幕府の命を受けた明石藩が建設をします。対岸の淡路の岩屋には徳島藩によって松帆砲台が建設され、使用はされませんでした。海峽で挟撃できるようになっていました。



いまは上写真のように大砲を模したベンチが置かれているところにW字の形の石垣の一部が見られます。現在はこの土台の一部が残るだけですが、建設当時は、土台部分が東西70m、海岸からの高さ10m、





で総石垣造りは国内では他に例のないものとされています。以前この地にあったファーストフード店がマンションに建て変わる2003~4年に発掘調査の結果、発掘された遺構がそのまま公開されています(右写真)。

余談ですが、ここは毎年7月に行われている「平和行進」のリレーをする中継地点にあたります。(TM)

「舞子台場跡」は 垂水区東舞子町8

9~10月の予定			
9月25日(木)	賃金確定 第1波県庁前決起集会	16:00~	県庁前
	高校生の就職保障宣伝行動	17:30~	大丸前
27日(土)	第170回中央委員会	10:30~	高教組会館
10月4日(土)	臨時教職員組合員のつどい	14:00~	高教組会館
19日(土)	DCI神戸集会	13:00~	勤労会館
25日(土)	神戸市教研	10:00~	勤労会館

県人事委員会への賃金改善要求署名を25日県庁前へ!

なくせ不安定雇用、高校生が夢と希望を持って就職し、人間らしく働けるように

9.16 高校生の就職保障をめざすシンポジウム



16日、近畿で一斉に就職試験が解禁となった日。近畿高等学校教職員組合連絡協議会（近高連）は、今年で10年連続して関西財界三団体（関西経済連合会・同友会・経営者協会）に『高校卒業予定者の就職保障等を求める要請書』を出し懇談を持ちました。今年もPTA会長も数人参加されたの懇談となり、三団体からも趣旨を理解してくれました。

その後、18時から大阪府教育会館にて、標題のシンポジウムが開かれました。そこでの参加者からの意見表明のいくつかを紹介します。

ブラザ合意(1985)後、産業空洞化、90年代バブル崩壊。雇用・就職問題が中小零細企業の後継者問題とあいまり危機的な状況。市の基盤であり、市職員組合はこれを守ると考え、高校生の就職と地域の雇用拡大が大切と考え行動している。(大阪府M市職労)

今日就職試験を受けてきた。雇用が安定していないと聞いたけど、いろんな進路選択から就職を決めた。就職して社会に貢献したい。(大阪市内高校3年生 写真)

わが子の同級生が就職したけどニートに。「1日16時間も働かされ、仕事も教えてくれず給料が安いし、きつくて辞めた」と。働くことが人間としての基本なのに。将来を見通して卒業させたい。夢を持つ。自立ができる。ような見通しを。(和歌山県定時制高校PTA会長)

現在失業保険で妻と子2人。ハローワークでの求人票では、「週休2日、残業月20時間」。しかし、実際は、研修期間は5時半出勤・19時退社。残業代無し。休日は定休日のみ。研修開けも変わらず、妻の臨月で年休を取ると翌月6万円カット。他のスタッフ2人と相談して、要求すると「これでやって来た」と恫喝され、青年ユニオンに相談加入すると、職務怠慢で解雇。現在、解雇撤回闘争で闘っている。求人票そのままではなく、精査して生徒には紹介して欲しい。(滋賀県青年"元"労働者)

毎日残業で手当でもないS金属工業。社内では、人間関係もよくなく、先輩から上司に違った報告をされることもある。上司が確認に来てくれたからよかったけど。正規雇用でも、長時間低賃金労働でパワハラも見られる。労働基本権と労働組合法を生徒に教えてわからせないと、困ったときに闘うすべを知らず、辞めるしかない。辞めたら状況が悪くなるので辞められない。きちっと教えておくことが大切。(大阪府内工業高校教師)

紹介した以外にも現役高校生そしてPTA会長からの参加発言もありました。集会のまとめとして、高校生が、自分が学んだことを社会でどう活かしさらにどうすればいいのかを真剣に考えている様子、高校生の就職の取り組みを自治体・地域から協働が生まれ、さらに関西財界も青年の雇用については、社会の要求を背景にもはや反論できなくなっていることが明らかとなったと報告されました。また労働問題にどう対処するのかを生徒にしっかりと学ばせる事の大切を痛感しました。(TM)



みんなで21世紀の未来をひらく教育のつどい in京都

教育フォーラム2 『これでいいのか！ 青年の働かされ方』

70年代には、正規は全労働者の93%あった。それが80年代に入り、「被扶養者である妻が、家計の足しに」という低賃金パート労働が、行政の黙認の中で拡大していった。

その結果、今や、フルタイムの非正規雇用も当たり前に見られる。若年層の半分以上が非正規と言われる中、正規労働者の労働の質も大きく様変わりしてきている。

その中の印象的な発言から……

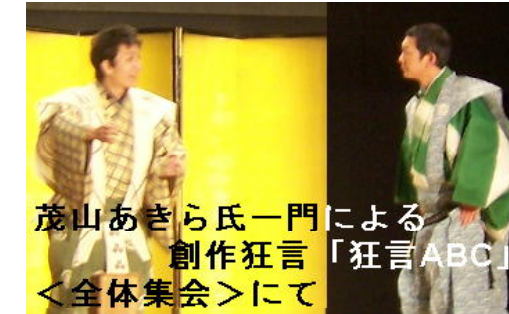
A「……非正規はしんどい、正規はつらい。非正規で何年か勤めている人に、正規になるチャンスが巡ってきたが、彼はイヤだ、と言った。保証もあり、給料もずっと高い。でも、あんな働かされ方では、自分は死んでしまう、と。」

B「自分は37歳で日雇いをずっとやっている。抜け出したいけど抜けられない。パワハラは当たり前で、派遣はクズ以下の扱いをされている。中には、金さえ出してくれるならイラクにでも行く、というヤツもいるが、正社員も含めて、今の働かされ方自体が戦場のようだ。」

C「若い子が、労働基本法の“ろ”の字も知らない。労働条件の通知も何もなく働かされて、一方的な不利益変更にも声を上げない。学校の先生はせめて教えてやってくれ。」

D「日本の場合、労働組合が産別ではなくて、企業別で、しかも企業別正社員組合だ。

それが、徹底的に弱い所じゃないか。」



父「就職はきびしいものだから相談に乗ってやる。」
子「とくになりたいものともござらぬが、働きたいときだけ働けて、休みたいときには好きなだけ休み、お金がたくさんもらえる仕事が、ようござる」
父「仕事は毎日働いて、束の間、休みを取るものだ」
子「それならばできるだけ楽な仕事がいい」
父「みどもが決めてやる。銀行員は？」
子「金を数えるのはいいが、他人の金だから」
父「学校の先生というのはどうじゃ」
子「学校の先生というの、たいへんなものでござる。遅うまで働いても残業代もでません。その上に文科省や教育委員会から、いろいろ厳しいしめつけもある。あのようなたいへんな仕事についたなら、私はいまはやりのうつ病になってしまいます。これはなりませんまい」

教育フォーラム8

『ネット・ケータイと子どもの世界』

パネラーの京都の中学校の生徒指導担当教師からは「生徒指導の半数はネット・ケータイに関することである、

中学生をもつ京都の母親からは「中学生の娘がアイドルのネットサークルで知り合った広島の子の所に泊まりに行くといいいだして、相手の両親と連絡が取れて安心した。」等の発言がありました。それを受けた、会場の大学生3年生からは「ネットで知り合った人の所に泊まりに行くなど信じられない。私たちの世代はネットのつきあいと現実とは明確に分かれていた。平成と昭和の違いか？」との発言があり、会場が笑いに包まれました。

最後に横浜市大の中西教授が、「ネット・ケータイを禁止できる状況ではない。その魅力と危険を明らかにしなければ」と問題点をあげたうえで、「子どもたち自身が自分たちの世界を人間的なものに上げていける力を育てることが大切」としてフォーラムを終了しました。120名の参加で会場は満席、フロア発言が相次ぎ、3時間では短すぎでした。